2024.10.29

大阪女学院中学校・高等学校 2023 年度学校関係者評価

学校関係者評価委員会

日時：　2024 年 10 月 28 日(月）午後 3 時～4 時 30 分

場所：　大阪女学院中学校・高等学校　北校舎　応接 B

学校関係者評価委員

ヘール会（PTA）会長：大山　明

ヘール会（PTA）副会長：関　千昌

ヘール会（PTA）副会長：桑野香野（欠席）

同窓会会長：児島若菜

同窓会副会長：崔　裕子

学識経験者：有澤慎一（日本基督教団池田五月山教会牧師）

陪席

校長：山﨑哲嗣

副校長：関口　淳

高等学校教頭：谷本　力

中学校教頭：平松秀元

議事進行

１　議長選出

合議により有澤慎一氏を議長に選出

２　議事

冒頭、学校長より、事業計画と実施概略について説明し、その後「大阪女学院中学校・高等学校　2023 年度自己評価」をもとに各事業項目について質疑応答・意見交換を実施。議事内容は以下の通り。

議事記録

自己評価【概況】について

A　キャンパスの開放、内外のコミュニケーションの回復を試行錯誤

質問：　近隣私立男子校と共同開催した TED TALK とは何か。
→プレゼンテーションとディスカッションを組み合わせた形態の英語の討論会を言う。これを本校高校生徒と私立明星高等学校の生徒がともに企画して実施した。双方の学校から弁論者・質問者が多数出て、活況であった。

質問：　キャンパスを解放した「マルシェ」とはどのようなことを行なったか。
→６つくらいの地域団体や商店が、キャンパス内において移動型のブースで展開し、地域の方をお招きして、接点と交流の場の設定を図った。加えて、本校生徒の男性保護者の会も出店ブースを展開して、無料の飲み物を提供した。本会には、本学院中学校受験志望の小学生やその保護者も多数参加してくださり、男性保護者の会と交流していただくことで、学校の価値を共有していただくことに資した。

意見：　キャンパスを開放することは、学校の存在意義を広く地域に知っていただく上で、大変重要である。学校を見ていただくのはとても良いことで、オープンにしてより多くの地域住民と交流を深めることを促進してほしい。ヘールチャペルは、コンサートや講演会などに適した施設であり、これまで外部団体に開放し、例えばゴスペルの会などを開催していることを承知しているが、そこに参加した人が、大阪女学院の立地や環境を大変評価してくださっているということもあった。大阪の中心部にありながら緑が多い環境は、昨今の都会の学校には珍しい。大きなグラウンドにスタンド、プールなどの大規模体育施設も充実しているし、何より正門を入ったらまばゆい緑というインパクトが大変大きい。これらの資源を、できるだけ地域の人たちに開放し、良さを知っていただいて上で、活用していただきたい。

B　社会・環境変化への対応

質問：　少子化の進行が募集に与える影響をどのように捉えて活動しているか。
→少子化は深刻であるが、大阪女学院の近隣の人口については増加傾向にあり、近隣からの通学者が増えている。加えて、少子化と反比例するように、中学受験をして私立中学校への入学を志願する人の率（受験率）は、少しずつ上がっている。長期的には学校の規模のダウンサイジングを計画しなければならないが、現況においては、募集は微増で推移するのではないかと分析している。

C　2023 年度の推移

質問：　2025 年度のカリキュラム・フレームの変更はどのようなものか。
→生徒全員が履修する正規の授業を月曜日から金曜日の 5 日間に設定し、土曜日は、生徒の選択で参加できる、探究・体験・学びの日とする。どのような活動や学びをしたいか、生徒・保護者に調査し、それに応じた体験ができるプログラムや学べる講座を用意する。講師には、同窓生や本校保護者の方々にも依頼するつもりである。自主活動の場ともし、探究的自主活動もポートフォリオを積み上げることで、総合選抜型入試に備えることができるようにする。また、着付けや華道など、単発で参加できるものも、設定する。

意見：　外部でバザーを開催し、その収益金を、日雇い労働者支援の NPO「ホームドア」に寄付したところ、この NPO とその関連会社を起業したのが、本校の卒業生であることを知った。卒業生がこのような活動に自らの知見と能力を捧げ活動できるのは、大阪女学院の教育が基盤にあったからで、そのような卒業生を継続して輩出できるよう、土曜日のプログラムを活用してほしい。

自己評価【2023 年度事業計画の自己評価・課題の改善点】について

A 財政と基本的な資源
内部調査報告に基づき、以下の項目をどのように評価するかについて意見を交換した。

空調
質問：　多くの高校生が空調について問題視していることがわかる。空調の問題とはどのようなものがあるか。
→教室の席によって温度差があるということが一番の課題である。
質問：　サーキュレーターなどは設置していないのか。
設置している。それでも場所によって温度にムラがあるのが現状で改善が十分ではない。空調は課題未解決の問題だと認識している。

トイレ
質問：　多くの高校生がトイレについて問題視していることがわかる。どのような問題があるか。
→施設が古かったので問題があったが、2024 年夏の時点で、高等学校のホームルームがあるすべての校舎のトイレの改修が完了し、最新の設備を備えた。問題は解消できたと考えている。

B 組織内要因生徒支援

質問：　生徒支援を課題だと考えている生徒が比較的多いことについてはどう考えるか。
→登校が困難になる生徒、あるいは不登校生徒は、本校の対応が不十分であるとの評価が多いと承知している。経験豊富な教員が退職することで、建学の精神やキリスト教教育の重要性の継承が困難になり、困窮生徒へのケアの目標を十分達成できなかったと分析している。しかしクリスチャンの新任教員も安定的に確保できているので、継承が順調に進めば、目標達成は可能であると考えている。

質問：　生活習慣、ルールを生徒・保護者の９割が守れているとする一方、教職員の評価は低いのはどういうことか。
→生徒は緩やかなルールを緩やかに理解している、それを見る教員は、その緩やかな様子を見て、できていないと評価してしまうからであろう。服装や生活態度についてのルールは、実態として概ね遵守されていると思う。スカート丈の短さには、指導が十分でない部分がある。

質問：　スカートの短い生徒はその都度注意されるか。
→一斉注意の機会が必要だと考えている。ルールを守る意識について、問いかける。

質問：　短いスカート丈は、盗撮などの被害を助長する危険があることも伝えるべきではないか。
→盗撮は、盗撮犯が圧倒的・一方的に悪なのであって、犯罪者に罪を犯させないように自分の服装を変えるような注意は順当な指導の方向性ではないと考える。盗撮の危険性を意識する啓発活動をもっと徹底していきたい。

質問：　大阪女学院の生活指導上のルールを生徒はどのように理解しているのか。
ルールに合理性があるかどうかの観点で言うと本校の生活指導上のルールには理不尽と思われる決まりはない。生徒多数がそれを適切に理解できるような、全体的な討論の場を設置することができると良いと考えている。

C　組織内要因スタッフ支援

質問：　本校教員は忙し過ぎる。何か対策は講じているか。
→休日出勤が入って、連続勤務になる場合があったが、2025 年については、全教員が月曜～金曜の勤務になる。（これまでは、交代で通常の週日に研修日を設定し、休日としていた）研修日の設定がなくなり、全員が土日ことで、時間割変更の可能性が柔軟になるため、半日の代休をとることが可能になるのではないかと推測している。

質問：　以前教員として他校で働いていた時に、毎日午後 11 時に帰る状態であったが、時間外勤務の実態と手当の支給についてはどのような状態か。
2024 年度から、学校長が認めた業務については、時間外手当を支払うようになった。放課後の会議隊は、決議の内容を事前に明示して、会議主催者が勤務時間内に会議を終えることを厳守してもらうように指示している。職員会議についても同様であるが、勤務時間が迫っても終わらない場合は、校長が勤務時間外延長を会議隊に諮って、了承を得られれば時間外勤務とし、会議出席者には時間外勤務手当を支給する。

D　組織外への働き

自己評価【概況】における「A キャンパスの開放、内外のコミュニケーションの回復を試行錯誤」において質疑を尽くしたとして、ここでは質疑なし。

E　総評

質問：　内部評価の調査において、生徒の回答率は高いが、保護者と教員の回答率が低い。どのように捉えるか。
保護者についてはウェブアンケートであるが、本校が保護者に付与している保護者専用アカウントにログインした状態でなければアンケートにアクセスできない仕組みになっている。保護者の中には、使用する端末によっては、アカウントにログインできないか、すぐにログアウトしてしまう設定になっている場合もあり、回答を敬遠しているケースもある。しかしログインのしやすさだけを優先してシステムを構築すると、安全性が脆弱化する。難しい課題だと認識している。

2024.3.30

大阪女学院中学校・高等学校　2023 年度自己評価

１．【報告の形式と方法】

（１）形式

２０２３年度事業計画書（１６項目４８要素）のフォーマットに準じて報告する。

（２）参照と分析

報告にあたり、以下のデータ等を参照した。

①２０２３年度内部評価・レビュー

②学院の収支決算報告書

③大阪私立中学校・高等学校連合会の報告書

④中学校・高等学校の各種報告データ

（３）報告

①２０２３年度の事業計画（１６項目４８要素）のうち、重点課題につい評価と改善点を報告する。

２．【概況】

（１）２０２３年度を振り返って

A　キャンパスの開放、内外のコミュニケーションの回復を試行錯誤

２０２３年度５月半ばより教育活動が２０１９年度同様に戻った。これにより本校の特徴である生徒主体の行事もより活発になった。

また内部の活動だけでなく新しく取り組んだものとして、キャンパスを開放し近隣の商店や団体によるたマルシェの開催、近隣の私立男子校と共同開催した「TED TALK」や国際共生を課題にしたフォーラムの開催、地域の企業によるクラブ活動支援などを行った、コロナ禍で減少したコミュニケーションを回復するだけでなく、キャンパスを地域貢献のためにオープンな場として活用していく試みである。

学内におけるコミュニケーションが一気に回復したとは言えない。アンケートによれば全ての項目においてどの集団もおしなべて満足度は高いが、いくつかの項目で生徒の約 1/4 が十分でないと回答している。この層に対する潜在的な問題の評価と対策、コミュニ

ケーションしやすい環境整備、教職員間の情報共有とフローのチェックなどを強化する。その一環として就職１０年未満の教職員による自主的な研修グループが立ち上がったのは今後の成果に期待できる。

B　社会・環境変化への対応(継続課題)

出生率低下による２０３４年「少子化の谷間」を前提に、中期的な課題として以下の４点に取り組んでいる。

①日本の少子化　（２０３４年の１３歳人口は２０２０年度比７０％への対応）

②グローバリゼーションの加速　（世界規模での経済をベースにした基準の統合・画一化への対応）

③ダイバーシティへの対応　（他種多様な属性、文化、価値観から成る社会で生きるために）

④危機管理の重要度増加　（災害、経済危機、政治危機のなかでも平安に生きるために）

C　２０２３年度の進捗

前年度より継続し、フレームとプログラムの再構築の議論を重ね、計画を定めた。短期の達成事業は以下の通り。

①２０２５年度のカリキュラム、フレームの変更

②危機管理およびガバナンスの確認と強化

③生徒や教職員の主体性を伸長するため学習や自助支援グループの形成

（２）生徒募集概況と動向

２０２４年度入学者および全校生徒総数は以下の通り。（５月１日比較）

２０２３年度の比較では中学入学生がやや増加。高等学校入学生は減少傾向が続いた。

①中学校　１年生入学者数（前年度比）　１７８名（＋１３）

生徒総数（前年度比）　５０９名（＋１７）

②高等学校１年生入学者数（前年度比）　２４２名（－２７）

内訳：内部進学１３７名（－１８）、専願７７名（－８）、併願２８名（－２）、編転入他３名

生徒総数（前年度比）　８６９名（＋１５）

③中学校・高等学校　全校生徒総数　１，３６６名（＋２２）

２０２３年度も引き続きオープンキャンパス、個別相談会、地域ごとのサロン形式の説明会、個別のキャンパスツアーなど開催しアクセス数は増加した。重点的に広報したなかで特に成果が上がったのは北摂、生駒・奈良エリアであり、都心回帰以外に人口増加または私学入試に関心のあるエリアへのアプローチは今後も継続する。

志願者・入学者は過去３ヶ年比較で中学が増加、高校は微減。特に関西圏の中学入試志願者は増加傾向にあり、私学に対する期待のあらわれと推測する。その中で他校との差別化、在学時・卒業後の満足度の向上を継続する。本校のミッションステートメントを土台にし、時代や社会に即した内容の刷新は必須である。

本校の中学校入試の結果、合格者に対する入学率が高い傾向は続いている（以下、表参照)。一定の「コアファン」の存在がある。この**コアファン層を 20%増加、入学率を 70%に近づけることが引き続き目標**である。

年度	方式	出願者数	受験者数	受験率%	合格者数	入学者数	入学率%
2022	国際	26	26	100	25	25	100
	前期 A	149	132	88.59	129	111	86.05
	前期 B	77	71	92.21	71	22	30.99
	後期	126	35	27.78	31	12	38.71
		378	264		256	170	
2023	国際	33	33	100	29	28	96.55
	前期 A	168	145	86.31	137	117	85.40
	前期 B	72	67	93.06	67	17	25.37
	後期	117	40	34.19	36	7	19.44
		390	285		269	169	
2024	国際	50	49	98.00	45	44	97.78
	前期 A	160	130	81.25	118	104	88.14
	前期 B	89	84	94.38	81	19	23.46
	後期	117	50	42.74	35	12	34.29
		416	313		279	178	

３．【２０２３年度大阪女学院中学校・高等学校事業計画】

（1）イントロダクション

A　２０２３年に向けて – 「揺り動かされることのないもの」を示し、育む

２０２２年はコロナウィルスへの対策が緩和され、活動や移動も一定回復した。いっぽうで「コロナ禍」における生徒のコミュニケーションや、学習には個人差が生じたままである。外部施設への訪問をのぞき、アクティブな学びや行事を再開したいま、生徒の意欲・動機・習慣の向上をどのように促すのかは継続的課題である。

そうしたなか整備した ICT（情報通信技術）は今後、単なる通信ツールでなく生徒の学び・教職員の働きの主体性・創造性を助けるための adaptive な（個別に最適化された）ツールとして用いる段階に入る。

２０２２年はロシアのウクライナ侵攻や円高による原価の高騰・流通遮断が日本経済に打撃を与えた。まさに未来は「予測不可能」の感を強めた人も多い。またこの状況は経営面で入学者の対象が減少することを意味する。保護者の視点に立てば入学後の「付加価値」を厳しく審査される。「予測不可能」な時代であるからこそ、「揺り動かされることのないもの」をどのように示し、育むのか、大阪女学院の真価が問われる。

ミッションステートメントを土台とした教育、入学生・保護者・ステークホルダー全般の理解、CSR（企業の社会的責任）として生徒のみならず、世界の未来に対して責任を担い投資すること。このミッションは私たちの遺産・資源・可能性を確認し、最大限活かし、価値を持続的に創造できるか、個々やチームで「自分事」として引き受けることにかかっている。

B　使命の確認 - ミッションステートメント

ミッションステートメントは私たちの使命（ミッション）のエッセンスであり、それらは「今、ここ」の文脈（Context）において、具体的な事業やスタッフの思考と行動を通じ具現化されるものである。それはまず、私たちスタッフ自身が何のために働き、どのような使命を帯びているのかについて「日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く」ことを実践し、日々の働きで決断や選択をするさいの原則（Principle）に立つことから始まる。

（1）キリスト教に基づく教育をめざす
（2）神を畏れる
（3）真理を追究する
（4）愛と奉仕の精神で社会に貢献する

C　社会の課題 - 未来への投資

中等教育の事業目標は、短期的には生徒の卒業時と入学時の差異がプラスであること、長期的には卒業生が変化する社会に対応し、生きがいを持って幸せな人生を送る土台を形成することである。

いかなる状況でも精神的・身体的・経済的に健やかでいられるために、私たちの役割は生徒に「転ばぬ先の杖」を周到に用意することではなく、「転び方」と「起き上がり方」を獲得させることであろう。

（1）日本の少子化　（２０３４年の１３歳人口は２０２０年度比７０％への対応）

（2）グローバリゼーションの加速　（世界規模での経済をベースにした基準の統合・画一化への対応）

（3）ダイバーシティへの対応　（他種多様な属性、文化、価値観から成る社会で生きるために）

（4）危機管理の重要度増加　（災害、経済危機、政治危機のなかでも平安に生きるために）

（２）事業項目

４×４（１６項目）・４８要素

大きく４つの項目、それぞれ４つの要素に整理し、各要素の下に主な具体的事業を付記した。

教育事業の継続と発展は、基本的な資源が必要不可欠である。２０３４年までの人口推移予測をもとに試算した結果、**創造的で持続可能な教育および財政の健全化のために今後重点的に取り組むべき課題**を以下に記す。

項目	要素①	要素②	要素③	要素④
A 財政と 基本的な資源	1. 財政 (1) 健全な収支 (2) 修繕積立金 (3) 寄付、その他	2. インフラ (1) 建築物 (2) ICT インフラ (3) 生活インフラ	3. 安全保障 (1) 危機管理 (2) 災害対策 (3) 基金と奨学金	4. 遺産 (1) 建学の精神 (2) 文化と校風 (3) 資料と文化財
B 組織内要因-1 生徒支援	1. カリキュラム (1) 教科教育 (2) 行事 (3) 課外活動	2. 国際理解教育 (1) 言語教育 (2) 国際教育 (3) 海外進路	3. 人権教育 (1) 女子教育 (2) 人権学習 (3) 平和学習	4. 自立支援 (1) 支援教育 (2) 生活指導 (3) 進路指導
C 組織内要因-2 スタッフ支援	1. 労働環境 (1) 待遇 (2) 健康管理 (3) 福利厚生	2. キャリア支援 (1) キャリアプラン (2) 研修制度 (3) 資格取得支援	3. チーム形成 (1) 有機的なチーム (2) Servant Leader (3) 外部資源の活用	4. システム (1) 教育業務支援 (2) 経理業務支援 (3) 管理業務支援
D 組織外への働き	1. 広報 (1) 受験生向け (2) 塾向け (3) メディア向け	2. 保護者支援 (1) PTA 活動 (2) 就学支援 (3) 保護者支援	3. 同窓会 (1) ネットワーク (2) 共同事業 (3) 生徒支援	4. 社会貢献 (1) 地域貢献 (2) 施設支援 (3) 国際貢献

財政健全化のための３つの重点検討課題（ターゲット２０３４）

A　人件費収支バランス改善

①教員の健康維持管理

②基本授業時間数（ポストおよび減数、授業総時間数と外部委託）

③各年代のバランス（平均 44 歳、早期退職および再雇用制度、若年層採用）

B　採用・人事検討課題

①カリキュラム変更による各教科の必要人数

②新人育成と再教育・研修システム

③ポストの整理とワークシェア

C　生徒増加

①魅力ある学校生活

②卒業後の教育評価と広報

③コアファン 80%＋非認知層 20%へのアウトリーチ

（3）中学校・高等学校の教育目標と IB 学習者像、学習指導要領の関連

大阪女学院は、キリスト教に基づく教育をめざし、神を畏れ、 真理を追求し、愛と奉仕の精神で社会に貢献する人間を育成する。		
大阪女学院中・高教育目標	ＩＢ（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
●すべての人間は神によって創られたかけがえのない存在であると認識して、人権尊重の精神をもつ人間を育成する。 【愛】【親切】	●信念をもつ人 私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。 私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に 責任をもちます。	●正義と責任、男女の平 等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うこと。
●自由で伸びのびした校風の中で、自立した人間を育成する。 【喜び】	●バランスのとれた人 私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。 また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。	●生命を尊び、自然を大 切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと

●激しく動揺し、価値観が 変化する現代社会の中で、どのような困難にも打ち克って明るく前向きに生きる人間を育成する。 【平安】【自制】	●心を開く人 私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を 正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観 や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様 な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。 ●挑戦する人 私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化 に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。	●幅広い知識と教養を身 に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと ●個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
●正しい知識を身につけさせ、日常生活の雑事をこえて物事の本質を見極め、国 際的視野で物事を見る力を持たせる。 【善意】	●探究する人 私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。 ●知識のある人 私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグロー バル社会における重要な課題や考えに取り組みます。	
大阪女学院中・高教育方針	ＩＢ（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
●確かな学力を身につけさせ、生涯にわたって学習を続けていく基礎を確立させる。 【誠実】	●考える人 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキ ルを活用します。率先して理性的で倫理的な判 断を下します。	●伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

	●振り返りができる人 私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解 するよう努めます。	
●豊かな情操、高い知性、思いやりの心をもって自分を生かし、他の人を生かす人を育成する。 【寛容】【柔和】	●コミュニケーションができる人 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用い て、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意 深く耳を傾け、効果的に協力し合います。 ●思いやりのある人 私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。	

※表は大阪女学院中学校・高等学校の教育目標と、ＩＢ（国際バカロレア）および文部科学省の学習指導要領とを比較し関連付けたものである。なお【　】のキーワードは聖書（ガラテヤ 5:22-23）より引用した。

本校の教育目標に対してＩＢのそれは親和性があるゆえに導入した経緯がある。

「国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。」（IB の教育理念）

新しくなった文部科学省の学習指導要領は、ずいぶん本校のものと近しくなった。

「予測困難な社会の変化の中で豊かに生きるためには、変化に対して受け身で対処せずに、むしろ目指すべき社会像を議論し、共有し、実現していくことが重要となる。一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会であるべきであろう。Society 5.0 において人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、①文章や情報を

正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力が必要であると整理した。」（文科省・学習指導要領改訂のポイント　抜粋）

第一に、全ての活動における**（1）方法　（2）評価　（3）振り返り　（4）改善**　が重要である。
第二に、実践のための**資源を測定し必要を満たす**工夫が求められる。
第三に、践に生徒とスタッフの**マインドセット**と本来の**資質へ回帰（Revival）**することである。すなわち、
・生徒は、**自主・自立・自律**の姿勢を身につけ、**学び成長することの喜び**を経験すること。
・教員は、**Teacher（教授者）だけから、Facilitator（促す人）、Coach（導く人）、Mentor（助言者）**への回帰。

（4）２０２３年度事業計画

（2）事業項目　の分類に基づいて、各項目・要素ごとの重点課題を挙げる。**定常的なものはここでは扱わず、短・中期的視点で資源を投資する事業にしぼり、達成時期を定め、今後の評価と改善サイクル（PDCA）を明確にする。**
計画（単年度、中期の計画策定・修正）、実施、確認（中間決算・修正予算期、期日の変更・修正）、評価（学内、理事会、学校関係評価によるアセスメント）

A　財政と基本的な資源

課題は大きく３点。
１つめは少子化加速を踏まえた「**財政健全化のための３つの重点検討課題**」。
２つめは**情報危機管理および大規模震災対策**におけるインフラ、システム、組織の整備。
３つめは建築物を含めたインフラの耐用年数設定と**リノベーションまたは新規建築計画策定**。

A-1.財政　(1)健全な収支　(2)修繕積立金　(3)寄付、その他

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・専任数と人件費の適正化	常勤講師の新規職分策定	継続実施、2023 再評価・策定
・経理システム導入と人件費削減	出張・休日出勤精算システム導入	2022-順次実施、2023 完成 2022 実施、2023 再評価
・寄付の拡充	寄付計画推進、広報の見直し	2021-計画、2025 完成予定
・新規収益事業の検討・計画	西館跡地の有効利用	

A-2.インフラ　(1)建築物　(2)ICT インフラ　(3)生活インフラ

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建築物評価と答申 ・情報セキュリティーの強化 ・衛生管理施設の更新 ・空調設備の更新	耐用年数設定と新規建築計画 学内サーバ運用、端末の一元管理 トイレ等の更新 メンテナンス、コスト、環境	2023 再計画、2024-順次実施 2019-実施、2024 完成 2022-順次実施、2023 第 2 期工事 2022 完成、2023-管理

A-3.安全保障　(1)危機管理　(2)災害対策　(3)基金と奨学金

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・危機管理対応スキームの更新 ・南海トラフ等、災害時の運営 ・学内ファンドの増資と運用	ハンドブック作成と認知徹底 全員対象の対応スキル訓練と習得 PTA 会計からの継続的積み立て	2022-実施、2023 点検・修正 2022-実施、2023 再訓練 2020-実施

A-4.遺産　(1)建学の精神　(2)文化と校風　(3)資料と文化財

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建学の精神・歴史の浸透 ・資料の整理・保存・公開 ・登録有形文化財の活用	礼拝、教科（聖書）等で実施強化 収蔵場所構築と将来構想 チャペルの運用。北校舎の検討	2022-継続実施 2022-計画、2025 完成予定 2022-計画、2025-順次実施予定

B 組織内要因-1 生徒支援

課題は大きく 3 点。

1 つめは新しいカリキュラム基づく**シラバスの構築と実践、および生徒の視野の拡大とマインドセット**。

2 つめは生徒の多様化に応じた**アダプティブ（個別適応）な支援**（学習、支援教育、キャリア）。

3 つめは**「真に自立・自律した女性」の素地**をつくるトレーニング。

B-1.カリキュラム　(1)教科教育　(2)行事　(3)課外活動

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・基礎力及び個別支援の構築 ・主体的な学習の推進 ・自主学習支援の強化 ・SDGs の研究・発表（文化祭等） ・ラーニングコモンズの活用 ・情報収集スキルの向上	土曜日を含む枠組みの再構築 高校の科目設定、各進路への特化 放課後の学外メンター導入 中高全体の取り組みの構築 教科との連携 中学総合学習のシラバス変更など	2023-再答申、2025 順次実施 2023-再答申、2025 順次実施 2021-実施、2023 評価 2021-実施 2022-実施、2023 評価 2023-再評価・計画

B-2.国際理解教育　(1)言語教育　(2)国際教育　(3)海外進路

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・高度な語学運用能力の涵養 ・国際的視野と思考・表現力の強化 ・海外進路選択の拡充 ・情報収集サービス・資料の拡充	英検準１級、IELTS、SAT 講座 エンパワーメントプログラム強化 提携校の開拓、個別指導の支援 リファレンスサービスとの連携	継続実施、対象の拡大 2022-実施、2024 評価 2019-実施、2023 拡張と組み換え 2022-実施

B-3.人権教育　(1)女子教育　(2)人権学習　(3)平和学習

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・多様化する性への配慮と対応 ・ダイバーシティへの対応 ・平和学習フィールドワーク	解放（人権）教育プログラム 多言語インフォメーションの構築 修学旅行行程との連携見直し	2021-実施 2023-調査・計画 2023-再評価・計画

B-4.自立支援　(1)支援教育　(2)生活指導　(3)進路指導

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・対象の早期発見・支援 ・生活及び通学マナーの向上 ・多様な進路への対応 ・総合選抜型入試等への対応 ・学力層全体の上方スライド	情報共有の徹底とチーム対応強化 挨拶および通学指導 協定校、指定校以外の進路開拓 小論文、自己推薦書等の系統的指導 ICT の活用と個別最適化など	2022-実施、2023-強化 2023-調査・強化 2022-実施 2022-実施、2023 強化 2023-再評価・実施

C 組織内要因-2 スタッフ支援

課題は大きく 3 点。

1 つめは**スタッフの心身の健康増進および維持管理**。

2 つめは**有機的なチームの形成促進**のためのキャリア支援およびコミュニケーション構築の機会設定。

3 つめは「働きかた改革」およびコスト削減と連動する**業務支援システムの早期構築**。

C-1.労働環境　(1)待遇　(2)健康管理　(3)福利厚生

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・休暇の確実な取得 ・メンタルヘルスの向上 ・クラブ顧問外部委託の検討 ・課外プログラムの再構築 ・会議等の再構築	休日出勤の軽減、方法変更 早期支援と合理的配慮 コストおよび保護者の理解 必要の精査と労働軽減 必要の精査と労働軽減	2022-実施 2022 実施 2022-順次実施、2023 調査・計画 2023-調査・検討、順次改定 2022-順次改定、調査・検討

C-2.キャリア支援　(1)キャリアプラン　(2)研修制度　(3)資格取得支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・キャリアプラン支援の推進 ・学内研修のテーマと方法変更 ・心理学的アプローチの向上 ・キリスト教教育の研修の拡充	ヒアリングと適正配置 セッション中心の能動的内容 面談等のスキルアップ研修 キリスト教学校教育同盟との連携	2020-実施 2021-実施 2023-計画・実施 2022-実施

C-3.チーム形成　(1)有機的なチーム　(2)Servant Leader　(3)外部資源の活用

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・専任業務範囲の適正化 ・教員のフェローシップ拡充 ・メンター制度の検討	アウトソーシングと財源確保 「場」の共有とレクリエーション 新任教員の組織的フォロー	2020-実施、 2023 検討・実施 2023 検討・実施

C-4. システム　(1)教育業務支援　(2)経理業務支援　(3)管理業務支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・教務システム変更 ・精算業務の効率化と人件費削除 ・ICT 活用による収集業務変更 ・データベースの一元管理	成績処理および評価入力の変更 経理生産システムの導入 リサーチ等のオンライン化推進 生徒 ID の学内統一、出退勤管理等	2022-実施 2022-実施、2023 完成 2020-実施 2022-実施

D 組織外への働き

課題は大きく３点。

１つめは**広報活動のエリア拡大およびコンテンツの充実**。２０２６年までに人口比＋２０％を目指す。

２つめは１つめとも連動した、**同窓生および保護者との連携による教育活動の拡充**。

３つめは社会、とりわけ**地域貢献の新規事業開発**。

D-1.広報　(1)受験生向け　(2)塾向け　(3)メディア向け

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・新規エリア開拓 ・新しい地域密着型広報 ・オープンキャンパスの変更検討 ・主体的な教育実践の PR ・国際的な教育と海外進路の PR ・ユニーク入試の検討	北摂・阪神間へのアプローチ 説明会からフォーラム形式に イベント型から日常開放型へ 生徒による実践例の紹介 生徒・OG による実践例の紹介 教育方針に合った独自入試の検討	2022-実施、2023 拡張 2022-実施、2023 拡張 2022-実施、2023 拡張 2022-実施、 2022-実施、2023 評価 2021-検討、2023-検討

D-2.保護者支援　(1)PTA 活動　(2)就学支援　(3)保護者支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・ヘール会活動の再開と拡充 ・学内ファンドの告知方法検討 ・社会資源のリサーチと紹介	with コロナの新しい形を模索 申請の心理的ハードルを下げる 社会資源・制度の認知を拡大	2022-実施、2023 拡張 2022-実施 2022-実施、2023 調査

D-3.同窓会　(1)ネットワーク　(2)共同事業　(3)生徒支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・同窓会との連携と生徒支援拡充 ・新規ノベルティの企画・開発 ・中高ホームカミングデーの検討	ロールモデルとしての OG 紹介 母校との Relationship 強化 母校との Relationship 強化と広報	2022-実施、2023 拡張 2021-実施、2023 組織化検討 2023 検討・実施

D-4.社会貢献　(1)地域貢献　(2)施設支援　(3)国際貢献

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・地域貢献活動の新設・拡充 ・施設訪問や支援の再開・拡充 ・国際貢献活動の整理と位置づけ	地域への奉仕活動やイベント公開 施設訪問と支援の動機づけ向上 総合・探求学習との連携	2022-実施、2023 拡張 2023 検討、順次実施 2021-実施

４．【２０２３年度事業計画の自己評価・課題と改善点】

（１）内部評価の調査方法・調査対象、評価方法

・Web アンケート（Google フォーム）による無記名回答

中学校生徒	2023 年 12 月実施	回答（441 / 492）
高等学校生徒	2023 年 12 月実施	回答（738 / 873）
保護者	2023 年 12 月実施	回答（495 / 1365）
専任教職員	2024 年　2 月実施	回答（31 / 64）

（２）各事業項目の分析・改善点

各項目・要素別の評価を分析し、改善点を提言する。

A 財政と基本的な資源

主な Positive ポイント：①施設（中高生、保護者）　②ICT 支援（全対象）　③衛生・保健（全対象）
③建学の精神と礼拝による涵養（全対象）
主な Negative ポイント：①トイレ（高校生）　③空調（高校生）

改善点：①施設拡充、延期した高校のトイレ改修（東校舎）。
②引き続き高校校舎の空調ムラの解決。サーキュレータの見直し等。
②建学の精神とキリスト教教育の重要性は全校的に評価されているが、ベテラン教職員が退職する中で歴史や記録の継承と、再評価を継続する。

B 組織内要因-1 生徒支援

主な Positive ポイント：①行事（中高生）　②探究活動の ICT 利用（中高生）　③図書館利用（中学生）
④言語教育（全対象）　⑤国際理解教育（全対象）
⑥人権教育全般（全対象）　⑦生活指導（中高生、保護者）
⑧進路指導（中学生、保護者）　⑨コミュニケーション（中高生）
主な Negative ポイント：①生徒支援（中高生）　②図書館利用（高校生）　海外進路サポ

ート（高校生）

改善点：①行事への関心・満足度は高い。生徒主体の活動を振り返り、体験が知見として定着することが求められる。

②基本的な生活習慣、ルールを生徒・保護者 9 割近が守れていると回答するいっぽう、教職員の評価は低い。

この乖離をどのように評価するかは今後の課題である。

③人権教育、その意識の醸成に足する評価は全ての対象で高く、今後も発展的に継続する。

④図書館利用は中学生のポイントが高い。授業内での使用が多いことが要因である。高校生は一部のクラス（IB な

ど）をのぞき利用率が低く、こちらも積極的な利用促進を期待する。

⑤学習支援に関する満足度は中学生が高校生をやや上回っており、特に低学力層に対するケアの厚さが評価され

ていると推測される。

⑥概要でも記載したが中学生の 20%、高校生の 25%が「生徒に学校生活で困ったこと（いじめ、ハラスメント、

人間関係、成績不振、不登校など）があった場合、サポート（面談、支援、指導など）が不十分だと回答して

おり、日常の様子の把握、問題の初期対応など、チームとして早期から動く態勢を強化する。

C 組織内要因-2 スタッフ支援

主な Positive ポイント：①クラブ活動（中高生）　②チームによる生徒・保護者支援（中高生、保護者）

主な Negative ポイント：①キャリプラン、研修、待遇（教職員）

改善点：①教員の週 5 日勤務に伴うクラス形成の相互サポートに対する生徒・保護者の評価はおおむね高い。

②教職員の職務に対する評価では、キャリアと待遇に関するポイントが低い。2025 年度の生徒改革にともない、

「働きかた改革」を進めていくなかで、自己研修やキャリアプランニングなどに時間が割けるよう構造改革を

進める。同時に教職員間のコミュニティー形成、Servant leadership マインドの形成は必至である。

D 組織外への働き

主な Positive ポイント：①入試情報提供　②PTA 活動　③奨学金支援　③制服・ノベルティ　④地域社会貢献活動

（いずれも保護者）

主な Negative ポイント：①地域貢献プログラム（教職員）

改善点：**①入試広報による情報提供とマッチング、独自のファンドによる奨学金制度など評価されている。**

②2024 年より始めた地域連携・貢献、保護者との連携・協働を発展的に継続する。

E 総評

主な Positive ポイント：中高生・保護者の評価はいずれも約 90%以上と高い。

改善点：①私立学校において帰属意識・母校への誇りを生徒・保護者が持てることは重要課題である。在籍生徒に占める

姉妹および卒業生の子弟の割合が多いことは一定の評価を得ていると分析する。いっぽうでさらなる「コアファン」を獲得するためにはこうしたステークホルダーの満足度を高めること、当事者による発信が重要であると改めて認識する。

学校評価・自己評価　全対象結果 2023 posi nega.tbl

項目	要素	質問	中学生 posi	中学生 nega	高校生 posi	高校生 nega	保護者 posi	保護者 nega	教職員 posi	教職員 nega
A 財政と基本的な資源	1.財政 (1)健全な収支 (2)修繕積立金 (3)寄付、その他	本校の 2021年度の収支は健全であったと評価しますか？ (A-1-1)							31	69
		本校の施設修繕費用の積み立ては過不足ないと評価しますか？ (A-1-2)							34.5	65.5
		本校の保護者・同窓生・外部関係者への寄付金のアピールは十分だと評価しますか？ (A-1-3)							10.3	89.7
	2.インフラ (1)建築物 (2) ICTインフラ (3)生活インフラ	本校の校舎（教室、実験室、MMルームなど）、図書館、食堂、その他の施設は充実していると思いますか？ (A-2-1)	93.4	6.6	92.5	7.5	91.7	8.3	72.4	27.6
		本校の学校 ICT（情報通信技術）の活用（Wi-F設備、 Chromebookレンタル、メールや Googleの運用、 ICT支援員、学習のWebサイトの運用、その他サポート）は生徒の学習活動や教職員支援に役立ちましたか？ (A-2-2)	90.2	9.8	85.4	14.6	87.2	12.8	86.2	13.8
		本校の保健衛生および感染症対策などは機能を果たしていますか？ (A-2-3)							86.2	13.8
		本校の衛生施設（トイレ、手洗い場など）は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	79.8	20.2	72.6	27.4				
		本校の空調設備は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	89.8	10.2	66.7	33.3				
		本校の感染症対策は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	88.9	11.1	79	21				
		本校の保健活動（保健室、疾病時のサポート、保健だより）は生徒の健康や安全管理に役立っていますか？ (A-2-3)	89.1	10.9	83.1	16.9	93.8	6.2	86.2	13.8
	3.安全保障 (1)危機管理 (2)災害対策 (3)基金と奨学金	本校の危機管理（防犯、事故対応）は生徒・保護者や教職員の安全に役立っていますか？ (A-3-1)							75.9	24.1
		本校の災害対策（地震、気象災害）は生徒・保護者や教職員の安全に役立っていますか？ (A-3-2)							86.2	13.8
		本校の奨学基金は生徒・保護者や就学継続に役立っていますか？ (A-3-3)							86.2	13.8
	4.遺産 (1)建学の精神 (2)文化と校風 (3)資料と文化財	本校の建学の精神、スクールモットー、教育方針などは生徒・保護者に理解されていると思いますか？（A-4-1）	81.6	18.4	80.8	19.2	92.3	7.7	82.8	17.2
		本校の礼拝、その他のキリスト教プログラムは生徒の精神性や生き方を深めていると思いますか？（A-4-1）	75.1	24.9	79.5	20.5	90.1	9.9	93.1	6.9
		本校の伝統や文化、校風は生徒の精神性や生き方を深めていると思いますか？（A-4-2）							86.2	13.8

学校評価・自己評価　全対象結果 2023 posi nega.tbl

項目	要素	質問	中学生 posi	中学生 nega	高校生 posi	高校生 nega	保護者 posi	保護者 nega	教職員 posi	教職員 nega
A 財政と基本的な資源	4.遺産 (1)建学の精神 (2)文化と校風 (3)資料と文化財	本校の遺産（資料や文化財）の収集・管理・保存は十分だと思いますか？（A-4-3）							69	31
B 組織内要因 - 1.生徒支援	1.カリキュラム (1)教科教育 (2)行事 (3)課外活動	本校の教科カリキュラムは生徒の学力と学習意欲を向上させていると思いますか？（B-1-1）	87.1	12.9	79.5	20.5	81.7	18.3	55.2	44.8
		本校の学習支援（補習、OJAS、ビッグシスター、夏期講座、スタディサプリなど）は生徒の自主的な学習をサポートしていると思いますか？（B-1-1）	82.8	17.2	74.4	25.6			58.6	41.4
		今年度行った行事（遠足、文化祭、体育会など）は自主的な運営や課題解決のための力を身につけるのに役立ちましたか？（B-1-2）	95.2	4.8	89.8	10.2				
		授業、課題探求、文化祭、クラブ活動などで情報収集するのに学校 ICT（Wi-F設備、Chromebookレンタル、メールや Googleの運用、ICT支援員、学習のWebサイトの運用、その他サポート）は役立ちましたか？（B-1-3）	91.2	8.8	86	14				
		授業、課題探求、文化祭、クラブ活動などで図書館を利用した情報収集をする機会がありましたか？（B-1-3）	80.3	19.7	61.5	38.5				
	2.国際理解教育 (1)言語教育 (2)国際教育 (3)海外進路	本校の言語教育（英語授業、英語プログラム、J国際特別授業、韓国語講座など）は生徒の言語能力向上に役立ちましたか？（B-2-1）	82.8	17.2	78.5	21.5	79.7	20.3	82.8	17.2
		本校の国際理解教育（海外留学・研修プログラム、学内留学・研修プログラム、S英語科セミナー・エンパワーメントプログラム・キャンプ、解放教育の国際的なトピック学習、海外の子ども支援の取り組みなど）は生徒の国際社会理解に役立ちましたか？（B-2-2）	77.1	22.9	74	26			86.2	13.8
		本校の海外進路サポートは、生徒の進路選択に役立ちましたか？（B-2-3）	68.3	31.7	59.3	40.7	63.1	36.9	89.7	10.3
	3.人権教育 (1)女子教育 (2)人権学習 (3)平和学習	本校の解放（人権）教育は、生徒の人権や社会問題の意識向上に役立っていると思いますか？（B-3-1）	90.7	9.3	89.3	10.7	89.9	10.1	86.2	13.8
		本校の解放（人権）教育は、生徒の多様な性の理解を深めましたか？（B-3-1）	91.8	8.2	90.4	9.6			79.3	20.7
		本校の学校生活や解放（人権）教育は、様々な違い（国籍、文	91.6	8.4	92.4	7.6			93.1	6.9

学校評価・自己評価　全対象結果 2023 posi nega.tbl

項目	要素	質問	中学生 posi	中学生 nega	高校生 posi	高校生 nega	保護者 posi	保護者 nega	教職員 posi	教職員 nega
		化、習慣、宗教、考え方など）をもつ人たちへの、生徒の理解を深めしたか？（B-3-2）								
B組織内要因 - 1生徒支援	3.人権教育 (1)女子教育 (2)人権学習 (3)平和学習	本校の解放（人権）教育は、生徒の戦争・紛争・平和な世界の構築に対する意識を高めましたか？（B-3-3）	92.3	7.7	92.3	7.7			86.2	13.8
	4.自立支援 (1)支援教育 (2)生活指導 (3)進路指導	生徒に学校生活で困ったこと（いじめ、ハラスメント、人間関係、成績不振、不登校など）があった場合、本校のサポート（面談、支援、指導など）は十分だと思いますか？（B-4-1）	79.6	20.4	74.5	25.5	82.8	17.2	65.5	34.5
		本校における基本的な生活指導のルールを守れましたか？（生徒）／生徒が卒業後の社会生活を送るうえで適切だと思いますか？（保護者、教職員）（B-4-2）	93.2	6.8	94	6	89.5	10.5	58.6	41.4
		学内の教職員、学外の来校者、および生徒間で、あいさつなど基本的なコミュニケーションを実行できましたか？（B-4-2）	90.9	9.1	91.2	8.8				
		本校の進路指導は、将来の進路選択に関わる必要な情報とサポートを生徒に提供していると思いますか？（B-4-3）	87.8	12.2	87.5	12.5	87.8	12.2	72.4	27.6
		本校の進路指導は、将来の進路選択、特に多様な入試制度（協定校・指定校推薦、AO・総合選抜入試）に対応していると思いますか？（B-4-3）	88.4	11.6	87.8	12.2	89	11	55.2	44.8
		本校の進路指導は、あなたの学習に関するモチベーションの向上や学習方法の見直しに役立ちましたか？（B-4-3）	87.5	12.5	82.2	17.8				
C組織内要因 - 2スタッフ支援	1.労働環境 (1)待遇 (2)健康管理 (3)福利厚生	本校のクラブ活動・生徒会活動・委員会活動では、顧問やコーチから必要なサポートがありますか？（C-1-1）	75.3	24.7	75.3	24.7				
		本校の給与や制度等待遇は必要十分だと思いますか？（C-1-1）							34.5	65.5
		本校の教職員の健康管理は必要十分だと思いますか？（C-1-2）							37.9	62.1
		本校の教職員の福利厚生制度は必要十分だと思いますか？（C-1-3）							62.1	37.9
	2.キャリア支援 (1)キャリアプラン (2)研修制度 (3)資格取得支援	本校の教職員のキャリアプランの支援は必要十分だと思いますか？（C-2-1）							20.7	79.3
		本校で実施、本校が紹介する教職員の研修制度は必要十分だと思いますか？（C-2-2）							27.6	72.4
		本校で実施、本校が紹介する資格取得のためのプログラムや配慮は必要十分だと思いますか？							27.6	72.4

学校評価・自己評価　全対象結果 2023 posi nega.tbl

項目	要素	質問	中学生 posi	中学生 nega	高校生 posi	高校生 nega	保護者 posi	保護者 nega	教職員 posi	教職員 nega
		（C-2-3）								
C組織内要因 -2スタッフ支援	3.チーム形成 (1)有機的なチーム (2)Servant Leader (3)外部資源の活用	所属する単位（学年会、委員会、校務分掌、教科会など）は有機的に機能したと思いますか？（C-3-1）							62.1	37.9
		生徒・保護者が必要な時すぐに、教職員と相談・面会・面談ができしたか？（C-3-1）	77.6	22.4	83.7	16.3	91.7	8.3	75.9	24.1
		教員が研修日・欠勤・出張などで不在の場合でも、担任や担任以外でクラスや教科担当生徒への必要な連絡、サポートができたと思いますか？（C-3-2）	81.9	18.1	83.1	16.9	92.5	7.5	79.3	20.7
	4. システム (1)教育業務支援 (2)経理業務支援 (3)管理業務支援	本校の教育業務支援のためのインフラ（機器、ソフトウェア）の整備は必要十分だと思いますか？（C-4-1）							65.5	34.5
		本校の経理業務支援（出張旅費精算など）のためのインフラ（機器、ソフトウェア）の整備は必要十分だと思いますか？（C-4-2）							55.2	44.8
		本校の管理業務（出退勤管理、施設予約など）のためのインフラ（機器、ソフトウェア）の整備は必要十分だと思いますか？（C-4-3）							69	31
D組織外への働き	1.広報 (1)受験生向け (2)塾向け (3)メディア向け	入学前に学校についての情報が十分に提供されている思いますか？（説明会、個別相談会、地域での説明会、HP、SNSなど）（D-1-1）					91.2	8.8	72.4	27.6
		塾や受験業者と相互に情報が交換・提供され、効果的な生徒募集ができている思いますか？（D-1-2）							75.9	24.1
		学校についてやイベントの情報が十分にメディアに提供されている思いますか？（D-1-3）							86.2	13.8
	2.保護者支援 (1)PTA活動 (2)就学支援 (3)保護者支援	ヘール会（PTA）活動、クラスの懇親会など、保護者間・保護者と教員間の交流や理解を深める活動がなされていると思いますか？（D-2-1）					87.8	12.2	79.3	20.7
		学内の奨学金制度（ヘール会、グループ・ライダー・シオン）は保護者に十分に告知されていると思いますか（D-2-2）					89.6	10.4	58.6	41.4
		学外の奨学金・就学支援金制度の案内、生徒・保護者支援のための支援制度や施設などの紹介は十分になされていると思いますか？（D-2-3）					87.4	12.6	65.5	34.5
	3.同窓会 (1)ネットワー	本校のノベルティ、オリジナルグッズや学用品は充実している					90.3	9.7	86.2	13.8

学校評価・自己評価　全対象結果 2023 posi nega.tbl

項目	要素	質問	中学生 posi	中学生 nega	高校生 posi	高校生 nega	保護者 posi	保護者 nega	教職員 posi	教職員 nega
	ク (2)共同事業 (3)生徒支援	と思いますか？（D-3-2）								
D 組織外への働き	3.同窓会 (1)ネットワーク (2)共同事業 (3)生徒支援	本校の制服等のオプション品（ベスト、サマーセーター、パンツ、カバン類）は充実していると思いますか？（D-3-2）					95.5	4.5	96.6	3.4
		生徒のキャリア支援やモデルケースとして、卒業生との連携や支援を十分に活用できてると思いますか？（D-3-3）							79.3	20.7
	4.社会貢献 (1)地域貢献 (2)施設支援 (3)国際貢献	本校の生徒や卒業生による地域・社会貢献プログラムやボランティア活動は充実していると思いますか？（D-4-1）					92.9	7.1	55.2	44.8
		本校の生徒や卒業生による地域や関係のある学外施設・団体の支援は充実していると思いますか？（D-4-2）							37.9	62.1
		本校の生徒や卒業生の国際社会への貢献は充実していると思いますか？（D-4-3）							82.8	17.2
E 総評	帰属意識／リピート率、自己評価	大阪女学院が好きですか？あるいは大阪女学院性であることに誇りを持っていますか？（生徒）／知人・友人の子弟や親戚または家族に、大阪女学院の受験をお薦めできますか？（保護者、教職員）	90.5	9.5	88.3	11.7	94.3	5.7	79.3	20.7